外国語教育だより 令和６年７月３日発行　第３５号　福島県教育庁義務教育課

English Wind

小学校全教職員及び
中学校英語科担当教員配布

英語教育の風

1 「令和６年度英語担当教員エンパワーメント研修」より

今年度から3年間をかけて実施する、県内各小・中・高等学校を対象にした「英語担当教員エンパワーメント研修」がスタートしました。授業力向上を目的に、年間3回の研修が行われますが、今年度は小学校約120名、中学校約70名の先生方に、学校の代表として研修に参加いただいています。

先日「スタートアップ講座」を、校種別のオンライン研修として実施しましたが、Q&Aやアンケートの機能をいかし、適宜受講者のみなさんの考えや質問等を聞かせていただきながら研修が進められました。

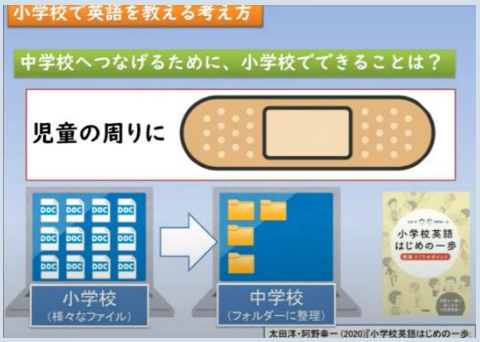
今回は、講師として大学の先生に御講演いただき、専門的な見地から授業づくりにつながるお話をいただきました。

【小学校教員対象】　演題：言語活動の充実を目指した授業づくり
講師：岐阜大学教育学部　教授　巽　徹　様

絆創膏に隠れている言葉は何でしょう？
「英語を・・・」　※答えは裏面の記事内に！

○　外国語教育におけるティーム・ティーチングやアウトプットの研究など、全国で御活躍されている巽先生は、授業で取り入れやすい言語活動や、音声と意味の結び付きに重きをおいた練習活動等について、具体的な流れを示しながら紹介くださいました。

◇　「ことば」が身に付く順序を考えると、「聞くこと」が5領域の中で基盤となる領域であること
◇　「言語活動」＝「話すこと」と捉えがちな認識を改め、5領域すべてが言語活動となり得ること
◇　Small Talk を取り入れることで気軽な言語活動の取組になること
◇　子どもの「わからない」や「言えない」は学習のつまずきではなく、学びの機会であり、学習のスタートであること



▲巽先生のスライド資料より

【中学校教員対象】　演題：ICTを活用したスピーキング活動・スピーキングテストの初歩
講師：福島大学経済経営学類　准教授　横内　裕一郎　様

○　スピーキングやテスティングの分野で研究を重ねていらっしゃる横内先生は、テストや評価について、理論や具体例を示しながら専門的な視点からお話くださいました。

◇　妥当性や信頼性が大事である一方で、評価規準をしぼることが評価のしやすさにつながること
◇　枝分かれ式やチェックリスト的なルーブリックの例示
◇　単元途中は「CRT」、学期末で「NRT」のイメージでのテストの位置付け方
◇　端末等での録音機能を活用した課題の提出や評価時の工夫

スピーキングタスクの形式

■産出の制限の強弱
制限が強いタスク：回答がほぼ1つに限られるもの
制限が中程度のタスク：回答にやや自由度があるが，ほぼ定形表現を引き出す場合
制限が弱いタスク：写真描写タスクなど，英語のインプットがなく，自身の知識を用いて英語を話す場合
制限がないタスク：自身ですべて発話の内容を考える場合

（参考：小泉利恵・印南洋・深澤真（編著）（2017）『実例でわかる英語テスト作成ガイド』2.3章）

▲横内先生のスライド資料より

2 「小中連携」の取組　～石川町立石川小学校研究公開より～

6月14日（金）に、石川小学校で実施された「石川町小中連携授業研究会」において、5年生の外国語の授業を参観させていただきました。

ふくしま外国語教育推進リーダーである鈴木文恵先生の授業では、児童が自分で考えた時間割を英語で伝え合い、“Why?” や“I like ～.”などを用いて内容理解を深め、楽しみながらやり取りをする姿が見られました。授業中、鈴木先生は児童のやり取りに注意を払い、次のような働きかけをされていました。

==========

【言語活動中】

○児童の発言に応えたり、児童同士の伝え合いの様子を笑顔で見守ったりするなど、「児童の発言や行動をほめる」働きかけ

○やり取りが早く終わった児童に“Why?”などで問いかけ、対話を促す働きかけ

【言語活動後】

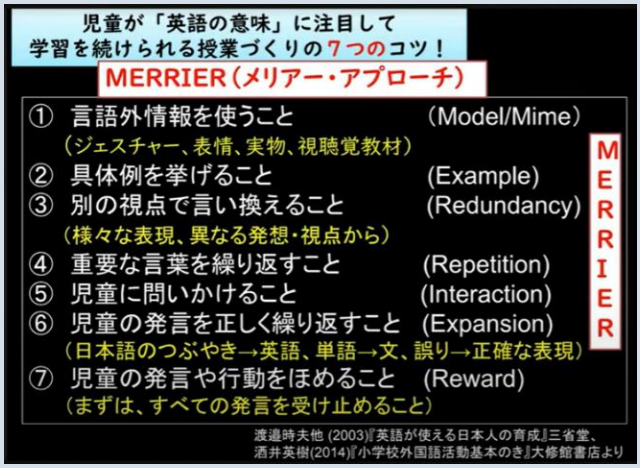
○have とlike の使い方が曖昧な点について、意味を確認して児童の理解を整理する働きかけ

○“Social studies do you like?”という児童の発言（語順の誤り）を反復して誤りへの気付きを促し、周囲の児童の発言をたよりに正しい語順を導いた児童を賞賛する働きかけ

「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」目的、場面、状況が設定されているからこそ、子どもたちは楽しんで英語を使い、英語の語彙や表現に慣れ親しみながら適切さを高めていました。英語担当教員エンパワーメント研修において、岐阜大学の巽先生がおっしゃっていた「児童の周りに英語をあふれさせる」授業、そして児童が「英語の意味」に注目していた授業が具現されていました。

▲have と like の理解を整理する場面

==========



◀巽先生のスライド資料より

事後研究会では、小中学校の先生方との協議の中で、小中連携の在り方について理解を深めました。

【協議会で話題に上がったこと】

Q．中学校で単語を正しく書くことができるようにするために、小中のどのような接続が考えられるか。

A．小学校段階での「音と文字に親しむ活動」を中学校段階での「発音と綴りを関連付けた指導」につなげることができます。目的をもった練習を取り入れることも大切です。

Q．「読むこと」と「書くこと」を小学校でどこまで指導すべきか。

A．小学校では文字を書き写したり、なぞったりしながら慣れ親しんだ単語の音と文字の関係に気付く段階です。中学校では語の綴りの正確さについて指導します。小学校で英語の音や文字に触れる機会を多くして、中学校で正確さを高めていけばよいと思います。また、学年だけでなく、児童生徒個々の学習状況や発達段階にも配慮していくことが必要です。

【学校段階別「書くこと」外国語の目標】

小学校	中学校
ア　**大文字、小文字**を活字体で書くことができるようにする。また、**語順を意識**しながら**音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を**書き写す**ことができるようにする。	ア　関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて**正確に**書くことができるようにする。
イ　自分のことや身近で簡単な事柄について、**例文を参考に**、**音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を用いて**書く**ことができるようにする。	イ　日常的な話題について、**事実や自分の考え、気持ちなどを整理し**、簡単な語句や文を用いて**まとまりのある文**を書くことができるようにする。
	ウ　社会的な話題に関して**聞いたり読んだりしたこと**について、**考えたことや感じたこと、その理由など**を、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

石川小学校での取組を始め、外国語教育における「小中連携」や「学びの接続」を目的にした「ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業」は、各地区で計画されています。今後も事業の情報等をお伝えしてまいります。

皆様の声をお聞かせください。

義務教育課では、皆様のニーズを踏まえた情報提供に努めたいと考えております。記事に関する御意見・御感想、授業づくりにおいての悩み等がございましたら、右の二次元コードを読み取り、フォームから御記入ください。　お待ちしております。

The mediocre teacher tells.　The good teacher explains.
The superior teacher demonstrates.　The great teacher inspires.

～ *William Arthur Ward* ～

English Wind English Wind English Wind English Wind English Wind English Wind

◆「English Wind」のバックナンバーは、義務教育課 HP から閲覧可能です！　https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/gimukyoiku65.htm